保険毎日新聞「みちくさ保険物語」111

戦前の保険会社の年賀状

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。この連載は、オリジナルな題材にもとづくものであることを神髄としています。具体的には、これまでに収集した戦前の保険史料が私に語ってくれる話を中心にして、回を重ねてきました。2023 年 1 月の連載でめでたく 111 回となります。あまり面白くない回もあろうかと思いますが、ご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

さて突然ですが、最初にトマトの話。トマトというと「イタ飯」を連想させるが、ポモドーロ・テクニックというイタリアで「開発」された方法について紹介したい。ポモドーロとはイタリア語でトマトのことだが、なぜトマトなのかは、後でお話しするとして、まずポモドーロ・テクニックについて説明したい。

25 分働いたら 5 分休憩することを、1 単位として、1 単位を N 回繰り返して仕事をする。たったこれだけのことだ。6 回繰り返すと 3 時間仕事をしたことになる。この方法は、机に向かっておこなう単純な事務作業などにはとくに効果的だ。実際に行ってみると 25 分の作業時間はやや短く感じられる。しかしあえて 5 分間の休憩を強制的にとることにより、次の 25 分の作業効率が高くなるように感じる。仕事に熱中して 1 時間以上机に向かっていると、自分では気が付かないが、次第に効率が落ちてくる。私は、翻訳をしている知人から聞いて、昨年この方法を導入した。すると大量の記述式の答案の採点とか、機械的に翻訳をする時とかに、効果があると感じた。とりわけ、高齢の身では、疲れ目などフィジカルな面で効果抜群だ。

実践では、キッチンタイマーを二つ用意すると便利。ウェッブ情報によれば、この方法を思いついたイタリア人がトマト型のキッチンタイマーを利用していたため、ポモドーロと名付けたということだ。私は、百円ショップで 2 つの色違いのタイマーを買った。税込みでしめて 220 円。安い投資だ。5 分休みの半分は、わが家のスキップ・フロアの階段を利用した昇降運動やストレッチを行い、残りは静かに休むことにしている。この方法に適した作業とそうでない作業があるはずだし、またこの方法を好まないタイプの人がいるかもしれないので、強制はしない。だが、机仕事に没頭してしまうタイプの方などは、一度お試しあれ。

閑話休題。年賀状という習慣がいつからどのように始まったのだろうか。先日の日経の文化欄の記事には、明治初期にはその習慣は広まっていなかったと書かれていた。また 1900 年以降に、会社から顧客への年賀状が増えたようだ。個人対個人の年賀状もあったはずなので、年賀状の起源については定かではない。

保険会社が、そもそも顧客に葉書を出す必要があるのは、どんな時だろうか？保険料払い込み通知などの募集上の理由、本店・支店の新築や移転の通知などが考えられる。事実、そういった葉書を何枚か所蔵している。これに対して、年賀状や暑中見舞いなどは、保険会社というよりも募集人と顧客の間で行われることが多かったのではなかろうか。このように考えて、所蔵する保険会社の葉書を一覧すると、大手生保と損害保険会社の年賀状は割と少

ない。

年賀状については、いくつかの中小の会社が、会社から直接に契約者へ出した年賀状が残っている。最初に掲載した共同生命の年賀状（大正 11 年元旦）は、本社と役員の写真の絵葉書で、契約者に直接に送られたものである（画像 1 と 2 を参照）。徴兵保険や簡易火災においても、会社から直接送られたものが残っている。ここでは日本簡易火災保険の年賀状を掲載した（画像 3）。この他、同じく会社から直接に契約者へ送られた福寿生命の年賀状も掲載する、同社の社名も慶賀にふさわしいが、年賀状も宝船をあしらったおめでたいものである（画像 4）。

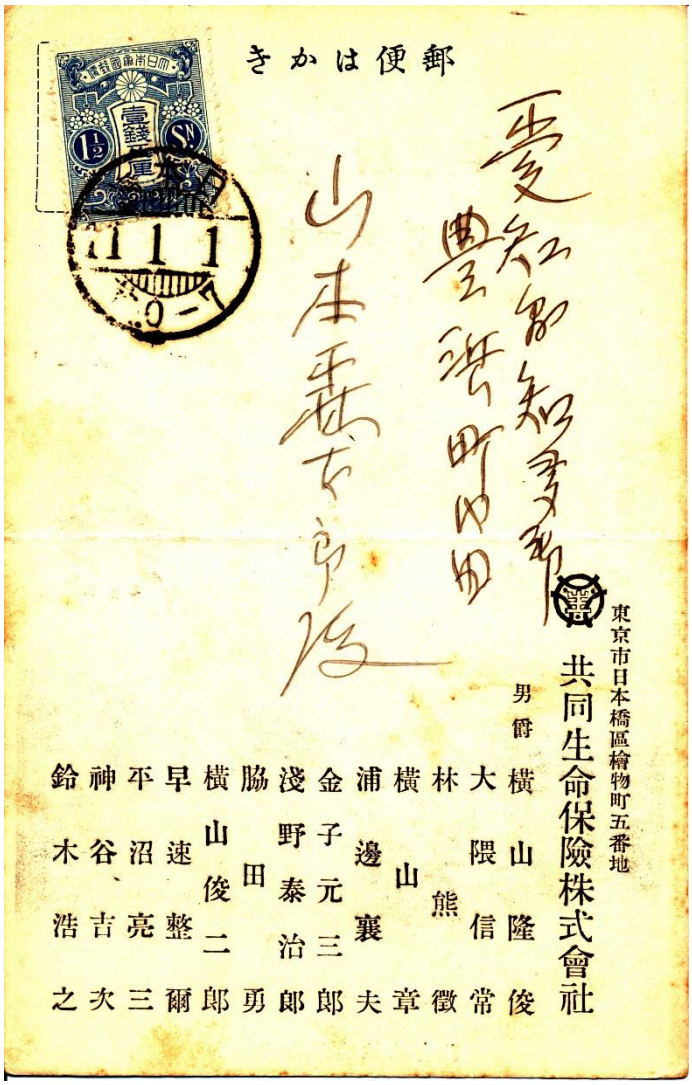
これに対して、当時の大手生保などは会社から直接に契約者へあてた年賀状はほとんど見られない。これらの会社の年賀状は、募集人の名前で個別に送られているものが多い。次の画像は、第一生命新館の絵葉書だが、「賀正」「一月元旦」という朱色のハンコが押されている。この絵葉書の宛名面は掲載していないが、大阪在住の募集人が自分の顧客のために差し出したものである（画像 5）。大手生保において会社から直接に契約者へ送る年賀状が少なかった理由は、契約者数が大きいためということの他に、募集チャネルの実態が異なっていたためではないかと思われる。

大手生保には、生命保険を普及するために作成したような絵葉書が数多くみられる。これらの絵葉書は、単に販促用の品物ということばかりでなく、募集人が契約者との間の密接な関係を保つためにも使われていたことが推測される。最後にそのような絵葉書からいくつか選んで掲載させていただく。

生命保険への加入によって「幸福な家庭」が築かれるというイメージは、募集促進にとって重要であった。ここに掲載した三井生命と帝国生命の絵葉書は、まさにそのイメージをしめしたものである（画像 6 と 7）。これらの絵葉書が募集人によって契約者への時候の挨拶の際に使われたことが推測される。最後の千代田生命の絵葉書は、漫画家の小川治平が浦島太郎を描いたもの。縁起の良い図柄でもあるので、年賀状に使われたとしても不思議ではない（画像 8）。

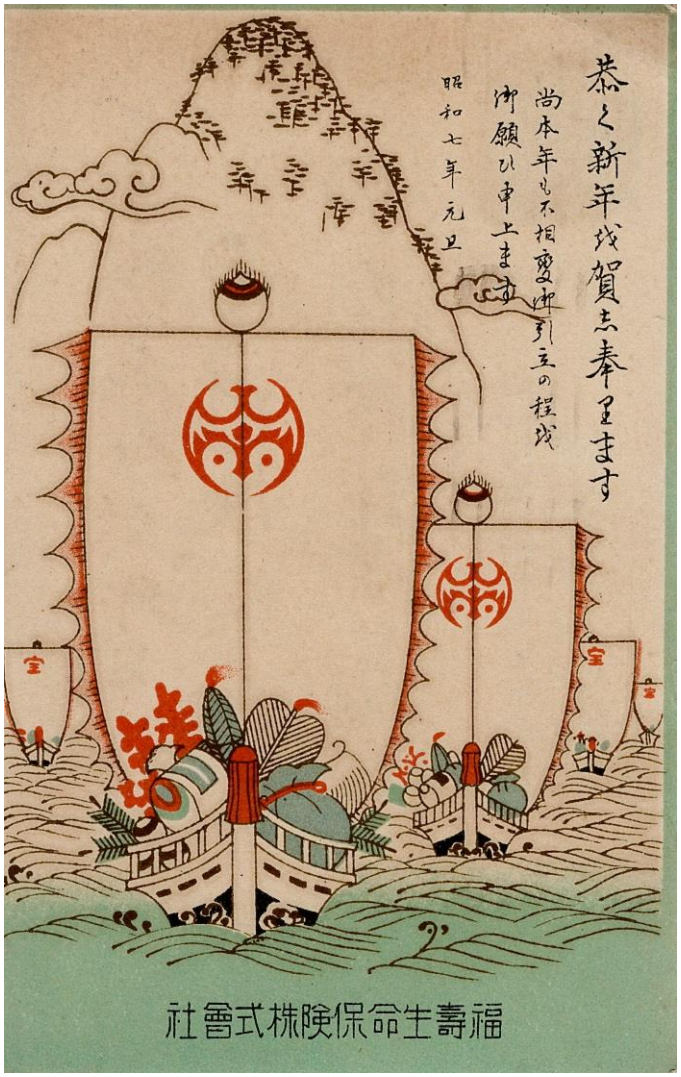
今年はじめての連載ということで、トマト風味でしたが、戦前の保険会社の絵葉書をメインといたしました。今年もご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

画像１：共同生命の年賀状（大正 11 年）絵葉書面



画像 2：共同生命の年賀状（大正 11 年）宛先面

画像３：日本簡易火災の年賀状（昭和９年）



画像 4：福寿生命の年賀状（昭和 7 年）

画像 5：第一生命の年賀状（昭和 14 年）左上に「一月元旦」、右上に「賀正」とある。

画像 6：三井生命の絵葉書（戦前）

画像７：帝国生命の絵葉書（戦前）

画像８　千代田生命絵葉書（戦前）